

社団法人 日本補綴歯科学会 *Japan Prosthodontic Society*

発行人 平井敏博 編集 広報・社会連携委員会

〒 170-0003 東京都豊島区駒込1-43-9

社団法人 日本補綴歯科学会

Tel 03-5940-5451 Fax 03-5940-5630



Letter for Members No.26 2007

<http://www.hotetsu.com/> 2007.10.10 発行

《コンテンツ》

補綴歯科専門医名簿をホームページに公開 …1	受賞者の声 ……5
第12回国際補綴歯科学会レポート ……3	関連学会報告 ……8
補綴歯科サマースクール 2007 開催される！ in 鳴門 ……4	関連学会案内 ……10
	写真公募！「補綴（ほてつ）シャッター チャンス！2007」……12

補綴歯科専門医名簿をホームページに公開

7月26日に補綴歯科専門医名簿がホームページに掲載されました。都道府県別に分けられ、希望する地域の専門医を検索するのに便利な設定となっています。専門医名簿へのリンクはトップページに大きく置かれ、一般の方に分かりやすいように配置されています。これまで長期にわたって「集計中」となっており、専門医および会員の皆様から進捗を心配する声をいただいておりますが、掲載の運びとなり、学会としても大きな前進といえるでしょう。今回の実現にあたっては、インターネット上に公開することから、名簿の再確認、および住所、電話番号を含む個人情報公開への各個の意思確認作業、これらの掲載方法、さらには最終案を提示したうえでの厚生労働省見解の確認を含め、各担当者の多くの労力が費やされています。そうした時間が必要であったことが専門医や会員の皆様に伝えきれぬまま経過してきたことについては今後改善してまいります。

「インターネットによる専門医の広告」に対する厚生労働省見解

①社団法人日本補綴歯科学会・専門医について別紙のとおり、住所・電話番号を当学会のホームページに掲載してよいか。⇒ YES

- ②院内ポスターとして、例えば「補綴とは何か？」「補綴歯科専門医とは何か？」という説明のポスターを掲示してよいか。⇒ YES
- ③社団法人日本補綴歯科学会から専門医の認定を受けている開業医の先生が、患者以外の不特定多数の人に、専門医として自由にメールできるか。⇒ NO 患者のみ OK
- ④社団法人日本補綴歯科学会専門医であることを、自身のホームページ、名刺・パンフレットに記載してもよいか。⇒ YES

読売新聞「医療ルネサンス」記事掲載

当学会ホームページへの補綴歯科専門医名簿アップを大きく後押ししたのが、7月27日から始まった読売新聞「医療ルネサンス・シリーズ歯科」でした。全6回の初回に「日本補綴歯科学会専門医」が大きく全国で紹介され、学会史に留めておいてもよい記事掲載となりました。ここに全6回シリーズのタイトルを挙げておきます。

これらの記事は YOMIURI ONLINE ホーム>医療と介護>医療>医療ルネサンス <http://www.yomiuri.co.jp/iryuu/medi/renai/> でご覧になれます。

●都道府県別専門医名簿

北海道									
青森									
秋田					岩手				
山形					宮城				
石川					新潟				
福井					富山				
山梨					長野				
群馬					栃木				
茨城					埼玉				
山梨					岐阜				
滋賀					京都				
奈良					大阪				
三重					愛知				
静岡					東京				
神奈川					千葉				
和歌山					徳島				
高知					香川				
愛媛					宮崎				
熊本					福岡				
佐賀					大分				
鹿児島					鹿児島				
沖縄									

◆シリーズ歯科 歯を失ったら

- ・第1回 入れ歯改善 食事おいしく (2007年7月27日)
- ・第2回 半年に1回 調整欠かせず (2007年7月31日)
- ・第3回 口のリハビリで「かむ力」 (2007年8月1日)
- ・第4回 危険少ない接着ブリッジ (2007年8月2日)
- ・第5回 よくかめるインプラント (2007年8月3日)
- ・第6回 手術前 あごをCT検査 (2007年8月6日)

ホームページへのアクセスが激増

読売新聞紙上で「補綴歯科専門医」が紹介されたその日から、学会事務局には朝から電話による問合せが殺到し、5日間で600件を超える慌しさでした。内容は、治療に関する相談と専門医の紹介依頼でした。局長を含め3名の事務局の方々には本当にご苦労様でした。インターネット環境がない方の場合には電話やファックスでの対応となります。さらに、その反響は大きく、学会ホームページへのアクセス数が驚くほどの数字となりました。新聞記事掲載前日のアクセス数が180件であったものが、新聞掲載当日の7月27日では7,300件を数え、前日の40倍を超えました。また、訪問者の95%が専門医名簿を閲覧しております。現在では徐々なる落ち着きがみられ、1日平均約400件となっています。これらのことは、

多くの国民が「良質な歯科医療、とくに補綴歯科医療」の享受を望んでいることの証左といえるでしょう。

理事長からの一言

こういった状況のなか、8月7日付で、平井敏博理事長、佐々木啓一、古谷野 潔副理事長、矢谷博文総務理事から補綴歯科専門医各位へ配布された文書があります。ここにその一部を抜粋します。

『このような状況下において、今、われわれ「補綴歯科専門医」にとって最も重要なことは、専門医の名に恥じない良質の補綴歯科診療を実践し、国民の期待に応えることであります。それができなければ、国民の「補綴歯科専門医」に対する信用を大きく失墜させるだけでなく、わが国の歯科領域における専門医制度の構築を大きく後退させることにもなりかねません。良好な診診連携、病診連携の構築を現実のものとするために専門医制度は欠かせない制度であり、社会の理解と支持を受けた専門医制度の構築は今後のわが国の歯科医療の発展そのものになるといっても過言ではありません。今まさに、多くの国民から良質の補綴歯科診療の実践をこれまで以上に厳しく求められ、また評価される時が来ていることをわれわれ専門医は肝に銘じる必要があります。』

(広報・社会連携委員会 川良美佐雄)

Happy Smiles & Heartful Communication

 MORITA

デンタルエステをはじめませんか

- 審美性を追求し、自然感のある透明性と優れた色調再現性を実現しました。
- 操作性と研磨性を向上しました。
- 専用のガラスファイバー「EGファイバー」を用いることで、メタルフリーブリッジの製作を可能にし、臨床用途を拡大しました。

ハイスリッド セラミック
エステニア C&B

■標準価格 スタンダードセット 128,000円
●医療機器承認番号21500BZZ200534

製造販売元 クラレメディカル株式会社
販売元 **株式会社モリタ** 東京本社 東京都台東区上野2-11-15 〒110-8513 TEL:03-3834-6161
大阪本社 大阪府吹田市豊水町3-33-18 〒564-8650 TEL:06-6380-2525

●掲載商品の標準価格は、2005年4月21日現在のものです。
●標準価格には消費税等は含まれておりません。

www.dental-plaza.com

第12回国際補綴歯科学会 (12th Meeting of the International College of Prosthodontists) レポート



講演に聴き入る参加者



会長を囲んでのワンショット、
Social outing にて

第12回国際補綴歯科学会 (International College of Prosthodontists, ICP) が “Expanding the Horizons of Prosthodontics” をメインテーマに、古谷野 潔先生 (九州大) ならびに Regina Mericske-Stern 先生 (ベルン大, スイス) を大会長として、平成19年9月5日 (水) から8日 (土) まで、福岡市の JAL リゾート・シーホーク・ホテルにおいて開催されました。本大会には世界中から補綴専門医が結集し、38か国から、約500名が参加しました。

学術プログラムは4つの Focus Session, 6つの Concurrent Session からなる口演セッション (招待講演21題, 一般口演54題) とポスターセッション (ポスター発表120題) で構成され、各会場で活発な議論が繰り広げられました。初日の講演のトップは George Zarb 先生 (トロント, カナダ) が “Prosthodontics at a Crossroads” と題して、また、学会最終日の締めめの講演は Harold Preiskel 先生 (ロンドン, 英国) が “Prosthodontic Paradigms” と題して、ICP の設立と発展に尽力されたお二人がこれからの補綴歯科の方向性について強烈なメッセージを投げかけられたのは大変印象的でした。また、大会3日目の Evidence Based Dentistry のセッションでは、補綴領域における質の高い臨床研究の必要性、ICP 主導の多施設共同臨床研究の必要性等についてきわめて活発な議論が展開されました。なお、学術プログラム全体を通してインプラント関連の演題が多くみ

られ (一般口演の65%, ポスター演題の28%), 昨今の傾向を強く感じました。

日本からも、佐々木啓一先生 (東北大), 前田芳信先生 (大阪大) が招待講演をされました。また、日本からの一般口演は9題, ポスター発表は40題, 参加者も約170名と、ICPにおける日本の貢献度の高さが再認識されました。

ソーシャルイベントとしては、Welcome reception では、会場の吹き抜けのアトリウムで各国からの参加者が再会を祝し、太宰府への Social outing では、太宰府天満宮ほかの散策の後、九州国立博物館を貸し切ったパーティで大いに親交を深めました。また、約400名が参加した Banquet では、両大会長が参加38か国の名前を順番に読み上げると、会場中が拍手喝采で学会への参加をたたえ、まさに国際学会らしい雰囲気を感じ

認証番号: 219AKBZX00066000

光/熱重合型硬質マイクロレジン

SRアドーロ

- 滑沢な表面を長期間維持
- プラークの蓄積が少なく、変色にも強い
- 高い耐摩耗性
- 優れた研磨性



ivoclar
vivadent



白水貿易株式会社
<http://www.hakusui-trading.co.jp/>

ました。

大会の最終日には、荘厳な音楽と神秘的な映像をバックに、次回大会（南アフリカのケープタウンにて 2009 年 9 月開催予定）の紹介がされ、2 年後の再会を期待しつつ、本大会は盛況のうちに閉会しました。（九州大 築山能大）

補綴歯科サマースクール 2007 開催される! in 鳴門



セミナー風景
(質問者は佐々木先生, その後ろは筆者)



星空の下のセミナー (講師は津賀先生)

8 月 31 日 (金), 9 月 1 日 (土), 徳島県鳴門市のホテルルネッサンスリゾート鳴門にて徳島大学の坂東永一教授を校長先生とする補綴歯科サマースクール 2007 鳴門が開催されました。本スクールは補綴歯科を専門とする高度専門医療人やその先端医療・研究を切り開く臨床系研究者を育成するために中国・四国支部の活動の一環として、支部学術大会の直前に開催されました。支部内の大学はもちろん、大阪大学や東京歯科大学、そして東北大学からもエントリーがあり総勢 38 名が参加しました。

中国・四国支部長である岡山大学の皆木教授の教育講演 1「歯科自然科学と新現場主義」では研究において現場で起こっている現象に注目することの重要性や、新しいアイデアを生み出すためには遊ぶのも重要であるということが話されました。

若手発表では主として大学院生 11 人が発表し、他の大学院生からも多くの質疑が出るなど活発な議論がなされました。若手発表については参加者全員が採点をし、岡山大学顎口腔機能制御学分野の下野賢吾先生が最優秀修了者に選ばれまし

た。

日本歯科医学会会長の江藤一洋先生による「歯科再生の道をさぐる」というタイトルの教育講演 2 では歯科の現状を広い視野から捉え、向上するための具体的な対策を示して頂きました。

懇親会では参加者が少人数であり、いつものスーツではなくカジュアルな服装も手伝って瞬間に全員がなごみ、親睦を深めることができました。その後の「星空の下でのセミナー」は屋外でホテルの壁にスライドを映し、6 人の中堅の先生方に講演して頂きました。残念ながら星空ではありませんでしたが、芝生の上に座ってお酒を飲みながら海の風にあたるのは最高に気持ちが良く、座長、演者の先生全員がほろ酔いという楽しい雰囲気の中でセミナーは夜が更けるまで行われました。

2 日目の最後は校長先生である坂東永一教授の「咬合学の過去、現在、未来」をタイトルとした教育講演 3 があり、咬合学の歴史と現状、そして未来へのメッセージを示して頂きサマースクールは閉校しました。

リゾートホテルという人間らしさを取り戻す場で他大学の先生といつもの学会以上に深く交流することができて多くの刺激をもらうことができ、サマースクールはとて有意味で印象深いイベントになりました。

(徳島大 村田雅代)

ハイブリッド型硬質レジン

パールエステ 誕生

口腔内でのツヤの
持続を実現!!

真球状のフィラーを高充填

保険適用外

カタログ請求はインフォメーションサービス

0120-54-1182 受付時間 9:00~12:00 / 13:00~17:30 (土・日祭日を除く)

※パールエステは充填用コンポジットレジンではありません

株式会社 トクヤマデンタル 本社:〒110-0016 東京都台東区台東1-38-9
http://www.tokuyama-dental.co.jp TEL 03-3835-7201

受賞者の声

(社)日本補綴歯科学会第 116 回学術大会
課題口演コンペティション優秀賞



古屋純一（岩手医大）
「嚥下ビデオ内視鏡検査と口蓋に対する舌圧の時間的關係」

この度、第 116 回学術大会課題口演コンペティション優秀賞に選出していただき、大変光栄に思います。

本研究は、当講座における「摂食・嚥下機能と補綴装置に関する研究」の一環として行ったものです。舌圧測定と嚥下ビデオ内視鏡検査（VE）は、それぞれ口腔期の食塊輸送と咽頭期嚥下を評価する手法であり、今回は、両者を同時に用いることで嚥下時の口腔と咽頭の機能を統合的に評価し、口蓋に対する舌接触と咽頭期嚥下が、ある一定の時間的關係を有していることを発表させていただきました。

高齢社会を迎えた現在、摂食・嚥下障害に対する歯科的対応が求められており、そこには、リハビリテーションという共通の地盤をもった歯科補綴学ならではのアプローチが存在するものと考え、今後も研究活動に精進して参るつもりです。

最後に、本研究の機会を与えて下さいました岩手医科大学歯科補綴学第一講座の鈴木哲也教授をはじめ、数多くの助言をいただいた当講座の先生方に厚く御礼申し上げます。



城下尚子（大阪大）
「下顎領域の腫瘍患者における咀嚼能力の回復に影響を及ぼす因子」

この度は、日本補綴歯科学会第 116 回学術大会課題口演コンペティション優秀賞をいただき、誠に光栄に存じます。

今回受賞させていただいた研究は、大阪大学歯学部附属病院咀嚼補綴科に来院された口腔腫瘍患者を対象としています。腫瘍治療後の顎欠損や機能低下に対して補綴治療を含みリハビリテーションを行います。その回復度には個人差があります。特に下顎・舌・口底の下顎領域の手術術式は多様であり、術後の回復度に影響を与えている因

子は解明されていませんでした。そこで、本研究は術前から機能評価を行うことによって、術後の咀嚼能力の回復に対する影響因子を解明するとともに術前から術後の回復度の予測を可能とすることを目的に行われました。現在は、チェアーサイドでの機能評価の効率化とデータの操作性の向上を目指したデータベースの開発に取り組み、さらに詳細な分析と嚥下能力の回復についても研究を進めております。研究に際して御指導、御鞭撻をいただいた野首孝祠前教授、小野高裕准教授、堀一浩助教をはじめとする諸先生方に心から厚く御礼申し上げます。



會田英紀（北海道大、UCLA大）
「光誘起超両親媒性チタン表面におけるオッセオインテグレーションの早期獲得」

名誉ある本賞を受賞させていただき、大変光栄に思っております。この光誘起超両親媒性チタン表面は従来のチタンを凌駕する優れた骨伝導能を有しており、インプラント適応症の拡大や治療期間の短縮が大いに期待されています。研究成果の一部は第 85 回 IADR 総会において発表しており、Arthur R. Frechette Research Award Competition 第 1 位をいただきました。今回は、この新規チタン表面では対照的に線維芽細胞の増殖と機能が抑制されるというデータを新たに加えて発表いたしました。現在、留学中に直接研究指導をしていただいた UCLA の小川隆広准教授が中心となって、この新規インプラントの臨床応用を目指した準備が着実に進められています。近い将来、会員の皆様にとってインプラント臨床の切り札になってくれるものと確信いたしております。最後に、快く留学を許して下さった北海道大学の大畑 昇教授ならびに教室員に厚く御礼を申し上げます。



牧平清超（広島大）
「顎堤骨吸収における TRAF1 遺伝子の関与」

このたびは、第 116 回学術大会課題口演コンペティション優秀賞をいただき誠にありがとうございます。

本研究では、顎堤骨吸収抑制法の開発を目的に

破骨細胞の分化機構の解明に着手し、最新の実験技術であるマイクロアレイや RNAi 法を併用して、TRAF1 遺伝子が破骨細胞の分化を負に調節していることをはじめて見出すことができました。今回の優秀賞は、TRAF1 をターゲットとした顎堤骨吸収抑制法の開発へと発展させていくうえで大きな励みとなります。今後も研究を継続し研究成果を社会に還元できるように邁進する所存です。

最後になりますが、本研究の遂行にあたって終始ご助言、ご指導をいただきました本学口腔保健工学講座二川浩樹教授ならびにフォーサイス研究所免疫学教室河井敬久准教授に感謝するとともに、このような研究に従事するきっかけを与えて下さった本学歯科補綴学研究室浜田泰三教授に心から厚く御礼申し上げます。



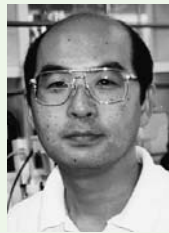
折居雄介（東北大）

「電子サイクロトロン共鳴プラズマ酸化によるチタンア膜生成とその石灰化能に関する検討」

このたびは、第 116 回学術大会課題口演コンペティション優秀賞に選出いただき、大変光栄に存じます。

今回発表させていただいた研究はチタンインプラントのオッセオインテグレーションの早期獲得を達成しうる新インターフェイス創生を目的とするもので、歯学研究科で進行している連携研究プロジェクトの一環であり、歯学研究科と東北大学金属材料研究所後藤研究室との共同研究です。さまざまな条件の電子サイクロトロン共鳴プラズマ酸化によって表面構造および結晶構造を改質した酸化膜は骨置換材料であるリン酸オクタカルシウム (OCP) の析出能に変化をもたらすことがわかりました。今後は臨床応用を目指し研究を進めていく所存です。

最後になりますが、本研究の遂行にあたりご指導いただきました東北大学金属材料研究所の増本博先生、OCP に関し多くの助言を賜りました東北大学大学院歯学研究科顎口腔機能創建学分野の鈴木 治教授、そしてこのような機会を与えて下さりご指導およびご教示いただきました佐々木啓一教授に厚く御礼申し上げます。



田中持郎（岡山大）

「脂肪族ビニルエステルを可塑剤とするアルコールフリー粘膜調整材の開発」

私たちは歯科用レジン材料のさらなる用途の展開と性能向上を目指して新規レジン系の構築と接着性モノマーの合成を行い、日本歯科理工学会を中心に研究活動を行っております。

普段の研究活動では、分子設計したとおりの化合物を苦勞の末に合成できても、期待した性能を発揮しないことが多いのが現実ですが、今回、既存のレジン材料の物性改善に留まらず、新たな機能に直結するレジン素材が開発できたと考え、「新材料、技術」という課題口演で研究成果を報告させていただきました。その結果、臨床家として実際に材料を用いて診療をなされ、同時に、研究者として材料開発をされている先生方で構成される日本補綴歯科学会において、私たちが開発したレジン素材が評価され優秀賞の榮譽を受け賜ったことは歯科用レジン素材を開発している者として、この上ない喜びであります。これを励みに受賞した新素材を用いた製品を世に出すべく尽力する所存です。

(社)日本補綴歯科学会第 116 回学術大会
デンツプライ賞



小山重人（東北大）

「可撤性部分床義歯の受容に関与する因子および満足度の検討」

この度は第 116 回日本補綴歯科学会学術大会優秀ポスター賞 (デンツプライ賞) を受賞させていただき、ありがとうございました。今回の発表は平成 13 年から東北大学大学院歯学研究科口腔システム補綴学分野の仕事として、毎年実施している可撤性部分床義歯 (RPD) のリコール調査結果をまとめて発表させていただいたものです。したがって今回は私が代表させていただきましたが、受賞は偏に教室員の汗と努力に対するものと考えております。

RPD 長期継続使用の困難さを示す報告が多いなか、RPD 使用状況に影響を及ぼすと考えられる因子との関連性に関するエビデンスは確立されて

いません。そこで本研究は、RPD 使用状況と患者ならびに RPD の多様な因子および満足度との関連を、多変量解析を用いて検討したものです。予見性の高い RPD 治療を行ううえで、ひとつの指標になることを願っております。

今回の発表にあたり、ご指導をいただきました加齢歯科学分野渡邊 誠教授、口腔システム補綴学分野佐々木啓一教授をはじめ当分野教室員各位にあらためて深く感謝を申し上げます。



本釜聖子（徳島大）

「簡易嚙下障害スクリーニングシステム法の開発：磁気センサを用いた測定法の概要」

このたびは、第 116 回学術大会デンツプライ賞を受賞させていただき、ありがとうございました。

近年、高齢化が進み、摂食・嚙下障害を有する患者の早期発見およびその対応が求められています。しかし、摂食・嚙下障害は、機能障害や能力障害の有無や程度について、“その障害をどのように評価するか”が非常に重要であるにもかかわらず、客観的で、簡便なスクリーニング法が確立されていないのが現状です。

今回、MI センサを用いた簡易嚙下障害スクリーニング法について発表させていただきました。私たちはこの研究を行うにあたり、脳神経外科、耳鼻咽喉科、神経内科の先生方の協力を得ながら進めてまいりました。今後、本研究の妥当性について検討し、摂食・嚙下障害の管理・治療に携わる医療の一助になればと思っております。

最後に、本研究を進めていくにあたってご指導いただきました、徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部口腔顎顔面補綴学分野の市川哲雄教授、永尾 寛講師に心より感謝いたしますとともに、研究にご協力いただきました先生方に厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。



内田昌範（大阪大）

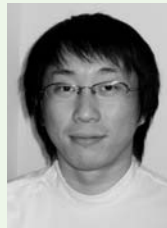
「補綴歯科治療による咬合回復が高齢者の QOL・ADL に与えるインパクト」

この度は、第 116 回学術大会のデンツプライ賞を受賞させていただいたことを大

変光栄に思います。

今まさに突入しつつある超高齢化社会において、歯科医療、特に補綴歯科治療による咬合回復が全身の健康にどのように役立っているか十分に明らかにされているとはいえません。今回の発表では、補綴歯科治療による咬合回復が高齢者の QOL・ADL にどのような影響を及ぼしているかについて統計学的分析を行いました。その結果、歯の延命が、高齢者の QOL・ADL の向上に寄与していること、また、補綴歯科治療が高齢者の ADL の向上に寄与できる可能性が示されました。歯を保存すること、ならびに歯の欠損に対して補綴歯科治療を行うことの意義の一端が、QOL・ADL の見地から示されたと考えています。

最後になりましたが、このような機会を与えて下さり、現在もご指導いただいております大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機能再建学講座の矢谷博文教授、石垣尚一講師、医学系研究科社会環境医学講座環境医学教室の森本兼曩教授、戸田雅裕助教に厚く御礼申し上げます。今後、さらに有意義な研究活動に勇往邁進する所存です。



大島正充（岡山大）

「bFGF 製剤の骨髄腔内注入によるインプラント埋入部位歯槽骨の骨密度改善」

この度は第 116 回学術大会デンツプライ賞に選出させていただき、大変光栄に存じます。今回の研究は、インプラント埋入時に十分な埋入トルクが得られない臨床ケースを想定し、骨質改善療法の開発を目的に、塩基性線維芽細胞増殖因子（bFGF）をウサギ下顎骨骨髄内に注入することの効果を検討したものです。bFGF

NC VERACIA

ナノテクノロジーと機能的形態が融合した 新人工歯 **硬質レジン歯**

NC Veracia

医療用具承認番号 21100BZZ00751

NC ヘラシア アンテリア

硬質レジン歯(前歯用) 1組…¥780 色調: A1, A2, A3, A3.5, B2
形態: 上顎5形態, 下顎3形態

医療用具承認番号 21200BZZ00272

NC ヘラシア ポステリア

硬質レジン歯(臼歯用) 1組…¥1,040 色調: A2, A3, A3.5, B2
形態: 上下顎各2種

価格は2002年11月現在の標準医院価格(消費税抜き)です。

株式会社 松風

世界の歯科医療に貢献する
本社 ● 〒605-0983 京都市東山区福福上高松町11-TEL(075)561-1124代

をウサギ下顎骨骨髓内に注入すると、長管骨では認められない長期的な骨梁形成促進効果が認められました。この差異を生じる理由を明らかにするため、局所から分離した細胞を用いて検討したところ、下顎骨骨髓由来細胞と腸骨骨髓由来細胞では bFGF に対する反応性が細胞増殖・骨基質産生・破骨細胞形成という点で異なることを解明しました。今後も bFGF による骨再生を細胞レベルで詳細に検討し、インプラント術式の適応拡大を目標として、研鑽を積んでまいりたいと思います。

最後になりましたが、本研究をご指導いただきました岡山大学窪木拓男教授、園山 亘助教をはじめ、ご協力いただいた先生方に厚く御礼を申し上げます。

関連学会報告

第 26 回日本歯科医学教育学会学術大会



ポスター会場

平成 19 年 7 月 6 日～7 日に、長良川国際会議場（岐阜市）において、第 26 回日本歯科医学教育学会学術大会が開催されました。大会長は、朝日大学歯学部藤下昌己教授（準備委員長：平田健一先生）でした。

今回の学術大会では特別講演が 2 題、シンポジウムが 2 題ありました。特別講演は、日本歯科医学会会長の江藤一洋前理事長が「歯科再生の道をさぐる」と題して、今後の歯学教育の在り方、特に良質な人材育成能力の向上の必要性について提言されました。また、岐阜大学学長の黒木登志夫先生はがん研究の第一人者であり、「単純性・複雑性・多様性」と題して、専門領域のお話をされました。シンポジウムの 1 つは、日本歯科大学の小口春久教授がオーガナイザーとして「共用試験歯学系正式実施 1 年目の結果の分析と検証」と題し

て、CBT および OSCE の結果と共用試験実施制度およびモデル・コア・カリキュラムの改善点について報告されました。もう 1 つは、東京医科歯科大学の俣木志朗教授がオーガナイザーとして「新歯科医師臨床研修 1 年目終了後の検証」と題して行われました。ともに全国の歯科大学が数年にわたり準備してきたもので、今年がその 1 年目ということもあって、今後のあり方も含めて活発な議論がなされました。特に平成 20 年度にはコア・カリキュラムの見直しがあるとのことで、各大学教員の関心も高いものでした。

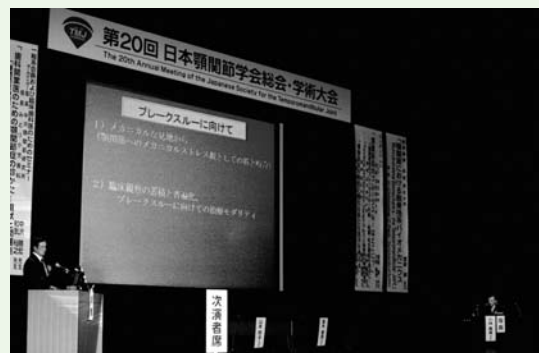
一般口演は 52 題、ポスター発表 115 題と演題数も多く、さまざまな歯科臨床教育についての最新の研究報告や提言がなされ、大変有意義でした。補綴学会からの参加者も多く、補綴学教育や実習のあり方などの報告がなされました。

（ホームページ・ニュースレター部会 有田正博）

第 20 回日本顎関節学会学術大会



特別講演
（川島隆太先生）



シンポジウム 2（座長：小林義典先生，
演者：皆木省吾先生）

日本顎関節学会の第 20 回学術大会（大会長：東北大学大学院歯学研究科口腔機能形態学講座加齢歯科学分野、渡邊 誠教授）が、平成 19 年 7 月 14、15 日の両日、仙台市の仙台国際センターにおいて開催されました。800 余名にのぼる参加者を得たこの大会では、口演 56 題、ポスター 84 題、計 140 題の一般演題を巡って白熱した議論が繰り広げられました。今大会では、顎関節症診療の根拠となる知識や標準的な診療法の現況を再確

認し、新たな診療ガイドライン策定への道標を刻むシンポジウム「顎関節症の診療ガイドラインを考える」、ならびに開業歯科医院における顎関節症治療の標準化、高度化を目指したセミナー「歯科開業医のための顎関節症の診かたー現状と問題点ー」が催されました。また今後の顎関節症研究の発展を促すべく、新たな突破口の模索をテーマに行われましたシンポジウム「顎関節症のブレークスルーはどこに？」では、座長の小林義典先生が自らの多年にわたる顎関節症研究に基づき、多様な切り口で咬合研究の必要性を提示されたのが印象に残りました。このシンポジウムで皆木省吾先生が顎関節負荷への着目の重要性を指摘されたのと呼応するように、シドニー大学、クリス・ベック先生が教育講演において、実測困難な顎関節メカニカルストレスを動力学モデルにより推定する手法やその最新の成果を紹介下さいました。東北大学加齢医学研究所の川島隆太先生の特別講演「脳を知り、脳を鍛える」は、基礎研究から臨床応用への飛躍の大胆さを実感できるお話で、聴衆の知的好奇心を大いに満たしたようでした。2日目、迫りくる大型台風4号が雨風を強め、列車や飛行機の相次ぐ運休が伝えられるなか、追い立てられるように会場を後にされた方々をお見受けしましたのは残念でしたが、最後まで台風を跳ね返すほどの熱いご討論を頂き、たいへん有意義な大会となりました。(準備委員長 服部佳功)

第24回日本顎顔面補綴学会学術大会

第24回日本顎顔面補綴学会学術大会は、岩手医科大学歯学部口腔外科学第1講座水城春美教授総会長のもと、平成19年7月20,21日にいわて県民情報交流センター(アイーナ)において開催されました。顎顔面補綴に関する一般演題は34題あり、いつもながらの活発な討議がなされました。特別講演は、「幹細胞を用いた歯科再生研究の現状と臨床への展望と課題」と題して岩手医科大学原田英光教授による講演が行われ、聴衆一同感銘を受けました。教育研修会は「顎顔面補綴におけるチームアプローチ」と題するパネルディスカッションで、岩手医科大学伊藤創造先生、北海道医療大学今井智子先生、愛知県がんセンター長縄弥生先生、九州大学松山美和先生の4名による講演が行われました。各施設におけるチームアプローチの実践を理解することができ、今後各施

設のアプローチの参考となる有意義な教育研修会でした。第25回大会は平成20年6月13,14日九州歯科大学で開催されます。多くの方のご参加を期待致しております。

(ホームページ・ニュースレター部会 鱒見進一)

第12回JAOP・第8回口腔顔面痛学会 共催学術集会

残暑去りがたくまだまだ暑さが厳しいですが、会員の皆様はいかがお過ごしでしょうか？ さる9月15日、16日の両日、風光明媚な信州の松本歯科大学図書会館にてJAOPは第12回学術集会を第8回口腔顔面痛学会との共催で開催したことは会員の皆様もすでにご存知の通りだと思います。

海外からRobert L. Merrill先生とAntoon De Laat先生が特別講演にお越しになったことをはじめとして、このたびの共催学会は口腔顔面痛の基礎研究と臨床現場との融和を図った講演、シンポジウムが行われました。

両学会会員による活発な討論が質疑応答時、会場ロビーを問わず展開され、非常に有意義な学会であったとともに、JAOPおよび口腔顔面痛学会の2学会によって口腔顔面痛に対する研究、臨床活動がますます活発になることを感じさせる共催学会であったことをこの場を借りてご報告させていただきます。(岡山大 沖 和広)

美しさと強さの融合 **GRADIA**
MFRナノハイブリッドテクノロジーの導入で
グラディアがレベルアップ 健保適用外

GRADIA FORTE
Total Esthetic Harmony **NEW!**

超高強度MFRナノハイブリッドタイプ
ジーシー グラディア フォルテ

医療用登録番号 21700B2Z00065000号
発売元 株式会社 ジーシー / 製造元 株式会社 ジーシーデンタルプロダクツ

関連学会案内

第 17 回日本磁気歯科学会学術大会

会 期：平成 19 年 11 月 17 日(土), 18 日(日)
会 場：東京医科歯科大学歯学部特別講堂 (JR
お茶の水駅より徒歩 3 分)
大会長：水谷 紘 (東京医科歯科大学大学院部分
床義歯補綴学分野)

連絡先：〒 170-8549 東京都文京区湯島
1-5-45
東京医科歯科大学大学院部分床義歯
補綴学分野
第 17 回日本磁気歯科学会学術大会
実行委員会
実行委員長 五十嵐順正
実行副委員長 秀島雅之
Tel : 03-5803-5515

テーマ：歯科領域における磁気応用の現状と今後の展望

特別講演：小宮山彌太郎 (ブローネマルク・オッ
セオインテグレーション・センター)
「Implant-Supported Overdenture
(仮題)」
多氣昌生 (首都大学東京)
「静磁場の生体影響と人体ばく露ガイ
ドライン」

参加登録：参加登録費の振込みをもって参加登録
と致します

大会参加費： 会員 非会員
当日 5,000 円 7,000 円
(9 月 15 日 (土) 以降)

参加登録振込先：
みずほ銀行 神田支店 普通 1125860
第 17 回日本磁気歯科学会学術大会

本学会では認定医制度を設けており、磁気に関する専門知識、臨床技能を有する歯科医師を認定医として認定しています。本学会 HP の認定医制度規則をお目通しの上奮って学術大会にご参加下さい。

日本磁気歯科学会は平成 3 年 (1991 年) に発足した学会です。学会設立は義歯に利用する磁性アタッチメントの誕生が契機であったため、この磁性アタッチメントを主体として学会

活動を行ってまいりました。しかし、最近では磁気を応用した各種計測機器や MRI などの検査機器も普及しており、歯科臨床への多様な磁気応用に関する総ての情報を交換する場としてリーダーシップを執ることを目指しております。

第 18 回日本歯科審美学会・ 第 26 回日本接着歯学会 合同学術大会

会 期：平成 19 年 11 月 17 日(土), 18 日(日)
会 場：九州大学医学部百年講堂および同窓会館
大会長：寺田善博 (九州大学大学院歯学研究院口
腔機能修復学講座)

連絡先：〒 170-0003 東京都豊島区駒込
1-43-9
(財) 口腔保健協会コンベンション事
業部内
第 18 回日本歯科審美学会・第 26 回
日本接着歯学会合同学術大会事務局
Tel : 03-3947-8761
Fax : 03-3947-8873
E-mail : gakkai2@kokuhoken.or.jp

第 50 回日本歯科理工学会学術講演会 ならびに国際歯科材料会議 2007

会 期：平成 19 年 11 月 21 日(水)~24 日(土)
会 場：タイ・バンコク
The Imperial Queen's Park Hotel
大会長：宮崎 隆 (昭和大学歯学部歯科理工学講
座)

連絡先：〒 170-0003 東京都豊島区駒込
1-43-9
(財) 口腔保健協会内 日本歯科理工
学会
国際歯科材料会議 2007 準備委員会
Tel : 03-3947-8891
Fax : 03-3947-8873
E-mail : IDMC2007@kokuhoken.or.jp

第 17 回日本全身咬合学会学術大会

会 期：平成 19 年 11 月 24 日(土), 25 日(日)
会 場：浦添市産業支援振興センター
大会長：宮城正廣 (みやぎ歯科医院)

連絡先：〒 900-0021 沖縄県那覇市泉崎
2-2-2
みやぎ歯科医院
第 17 回日本全身咬合学会学術大会
Tel : 098-832-3012
Fax : 098-854-3362

第 24 回 (有中)日本障害者歯科学会学術大会

会 期：平成 19 年 11 月 24 日(土), 25 日(日)
会 場：長崎ブリックホール国際会議場, 長崎新
聞文化ホール
大会長：道津剛佑 (長崎県歯科医師会会長)

連絡先：〒 852-8104 長崎県長崎市茂里町
3-19
長崎県歯科医師会内
第 24 回日本障害者歯科学会学術大
会準備委員会
Tel : 095-848-5311
Fax : 095-846-0175
E-mail : office@nda.or.jp

第 19 回日本レーザー歯学会学術大会

会 期：平成 19 年 11 月 24 日(土), 25 日(日)
会 場：鶴見大学記念館
大会長：新井 高 (鶴見大学歯学部第二歯科保存
学教室)

連絡先：〒 230-8501 神奈川県横浜市鶴見
区鶴見 2-1-3
鶴見大学歯学部第二歯科保存学教室
第 19 回日本レーザー歯学会大会事
務局
Tel : 045-581-1001
Fax : 045-573-9599
E-mail : yamaguchi-h@tsurumi-u.ac.jp

国際接着シンポジウム 2008 in 金沢

会 期：平成 20 年 2 月 16 日(土), 17 日(日)
会 場：アートホール金沢およびホテル日航金沢
大会長：桃井保子 (鶴見大学歯学部第一歯科保存
学教室)

連絡先：〒 170-0003 東京都豊島区駒込
1-43-9

(財) 口腔保健協会コンベンション事
業部内
国際接着シンポジウム 2008 in 金沢
事務局
Tel : 03-3947-8761
Fax : 03-3947-8873
E-mail : gakkai2@kokuhoken.or.jp

第 7 回日本再生医療学会総会

会 期：平成 20 年 3 月 13 日(木)・14 日(金)
会 場：名古屋国際会議場
会 長：上田 実 (名古屋大学大学院医学系研究
科頭頸部・感覚器外科学講座)

学会 HP : <http://www.congre.co.jp/jsrm2008/>
連絡先：〒 466-8550 名古屋市昭和区鶴舞
町 65
名古屋大学大学院医学系研究科頭頸
部・感覚器外科学講座
Tel : 052-744-2348
Fax : 052-744-2352
E-mail : jsrm2008@med.nagoya-u.ac.jp

編集後記

暑い夏でした。学会にとっても熱い夏となりま
した。ホームページでの補綴歯科専門医名簿公開
と読売新聞記事掲載の反響は、良質な補綴歯科医
療への要求を浮かび上がらせました。病める患者
さんに福音をもたらしてこそその制度です。矜持も
必要ですが、身の引き締まる思いです。

(広報・社会連携委員会委員長 川良美佐雄)

社団法人 日本補綴歯科学会

広報・社会連携委員会

委員長 川良美佐雄

広報・社会連携部会

部会長 川良美佐雄 副部会長 水谷 紘

委員 池邊一典 岡根秀明 貞森紳丞

幹事 小見山 道

ホームページ・ニュースレター部会

部会長 鱒見進一 副部会長 塩山 司

委員 齋藤正恭 坂井貴子 田中昌博

幹事 有田正博

Tel : 093-582-1131

Fax : 093-582-1139

E-mail : m-arita@kyu-dent.ac.jp

〒803-8580 北九州市小倉北区真鶴 2-6-1

九州歯科大学顎口腔欠損再構築学分野

写真公募！

「補綴（ほてつ）シャッターチャンス！ 2007」

「補綴～ほてつ～のある風景」

（社）日本補綴歯科学会では、トップページに掲載します「補綴（ほてつ）シャッターチャンス」の写真を本年度も公募することにしました。多数のご応募をお待ちしております。

募集期間

2007年12月末日必着

応募のテーマ

「補綴～ほてつ～のある風景」

- ・ 補綴にかかわる人，光景
- ・ 補綴から連想される物
- ・ 人物，笑顔，口元
- ・ 歯科医師，歯科スタッフ，患者様，学生
（加工写真，イラスト等もOK！）

応募作品

ご自身でお撮りになった物，または作成した物に限らせていただきます。

作品規格

Jpeg形式データ（250×500mm，72ppi以上）または，カラー，モノクロプリント写真，組写真，加工写真も可。なお，すべて横写真に限ります。

応募方法

以下の必要事項を記入し，封書またはメールにてお送りください。お送りいただく写真の裏には氏名を明記してください。

お名前

ご連絡先

電話

作品タイトル

作品の説明

著作権

作品の著作権は（社）日本補綴歯科学会に帰属します。なお，使用できるよう被写体の権利処理を行っていただきますようお願いいたします（被写体が人物の場合は承諾や使用許可をお取りください）。

作品の返却

返却はいたしません。

審査

（社）日本補綴歯科学会広報・社会連携委員会が行います。

なお，応募いただきました写真は，後にHP上で公開し，ギャラリーとしてお楽しみいただけるよう計画しております。

応募先：E-mail：koho.jps@nihon-u.ac.jp

〒170-0003

東京都豊島区駒込 1-43-9

駒込 TSビル 302

（社）日本補綴歯科学会

広報・社会連携委員会